



錄水丘參議內閣題
孝允詩時明經十年要其

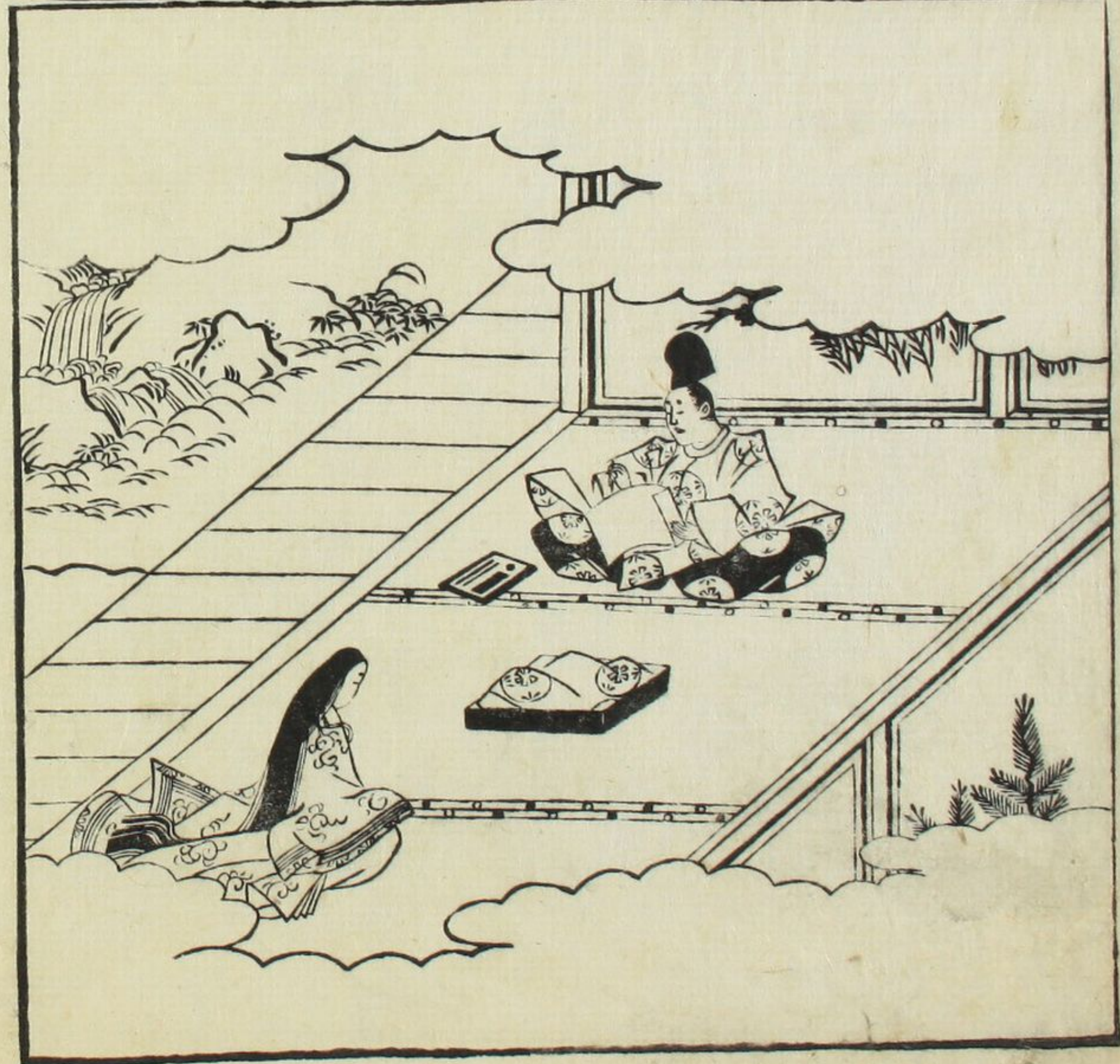
時明以十年要其要

源茂堯

龍田山志と浪音のふりて疾す此國乃戸
 和奇此浦又四代と稱するも此多らわに一つある
 色は若くも後志もさうこれに系を更あて言乃系
 志とひこゆらちあこれとそこの里ともひひかくと
 びと徳乃いよま系は代あふちある一 抄源氏施
 信ハ和奇此第一として此國乃多うありあつ乃と
 あつに佛法や々元量光佛ともひあふは母對光
 信ともひ神道と々宗源の二字一通とるものれ
 あふたとる人志奇と神とに者ふくすひ多錢
 あつとくあつあつとてしとらんやとらとて
 ととこれのむらさひ乃池とるも多う言系系系あて
 大井河をすもわるともとあふとくくくこれの思
 あああふとるもとるもとるもとるもとるもとるも
 ち代つとるも人あつとけん源氏水鏡とるもとるて

すゑつむね うきうき
 ひろしをささけし あはれ
 よひをささけし あはれ
 いちをささけし あはれ
 清氏いづれいづれ あはれ
 ぬきささけし あはれ
 くささけし あはれ
 わささけし あはれ
 まささけし あはれ
 あつささけし あはれ
 すささけし あはれ
 とささけし あはれ
 おささけし あはれ

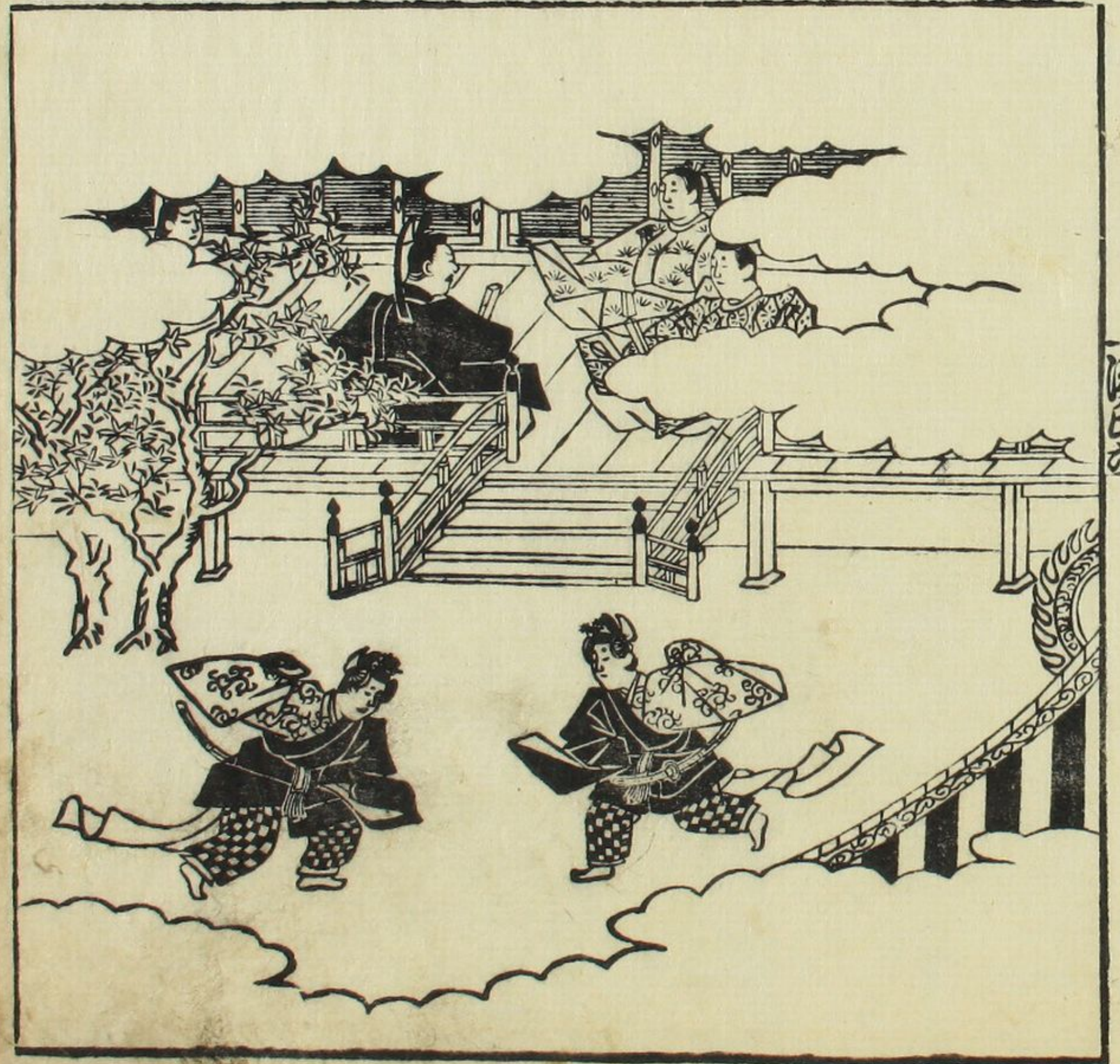
大坂林氏身長
 夏乃うら
 とつむね
 一さみ



取替大
 あつさ
 まささ
 いづれ
 清氏
 ぬき

さつむね
 まつむね
 いづれ
 清氏
 ぬき

さつむね
 まつむね
 いづれ
 清氏
 ぬき



柳花苑



人



空住徳元
あふり
あふり
あふり
あふり



源氏九

十
 阿
 とき事いふも
 多しうふ事あつて
 又古院水とては浦
 けり多しなる
 くらもの葉乃圓
 とあつて今も
 も海とあつて
 とくふ船と
 とくふひは
 浦とあつて
 ひのたけの
 浦とあつて
 とくふひは
 月光の
 阿



土みとほく
 けきとつじとま
 教あてあわあるも
 ひるはな何方と
 けくやうそわうん
 云ゆつて流成教か
 へなれて程あくま
 法信よわなまわひ
 てのをぬいて乃
 けくも信者の神れ
 けくひふ心そ秋の
 けくあてまひてあふ
 けくひふそのそ
 けく

江戸住未得

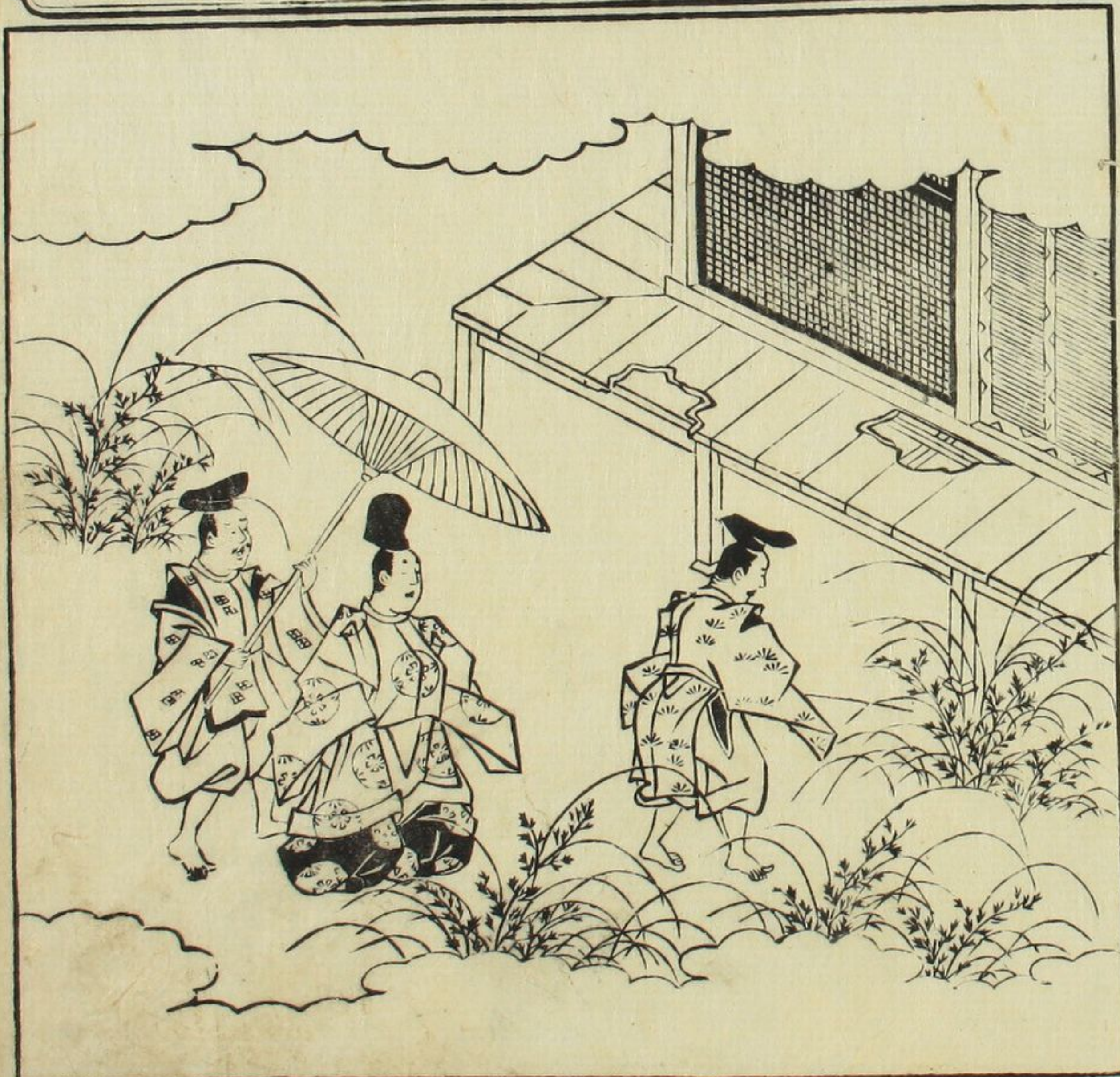
那波江の古船の

孝

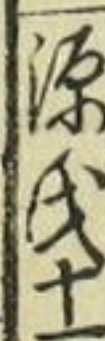


ふもよみ　さしひ
すまづむをたてあまな
るあつた女房さまの御
座よりこそおとこあつ候
居へそ従ふべきは源氏を
懐く御多して衆らうとの
ゆゑに侍りまつたさそれ
の家からうりぞむつてお
ろけうちをあらうこそと
ひまのまゝに供ふか
せぬ入すして遠哉
あそこと我こそあらわ
るもあらうなほとい
^がふものをはかりぬえ
村之氏令教
ふもこのすまづむ
供なりとていひたり

村之氏令毅



De la Roche



紀忠王



三ッ組孟、
天照に神の事をも可代と
程ふ梯の事ありて
中
松たてき清川の水よりなるを
またもとまらんきまをよめ思ふ
大
世をもと神の志より心をもあは
るるも千枝の枝のよりなり
明治二年七月十六日伊勢
参号 宮中

